

ほっとケーキ だより

28号

2023年
5月11日

発行：
親の会「ほっとケーキ」

親の会活動日： 月1回 第二水曜日14:00～16:00

フリースペース開催日： 毎週月曜日・水曜日13:00～16:30

開催場所：いずれも佐賀市青少年センター 佐賀市松原2-2-27バルーンミュージアム3階

郵便物送付先：〒840-0826 佐賀市白山2丁目1-12 佐賀商工ビル7階 市民活動プラザ内レター
ケースNo. 24 親の会「ほっとケーキ」

電話：080-4310-3277 E-mail: hotcake06@hotmail.co.jp

HP: <https://oyanokaihotcake.jimdofree.com/>



新緑まぶしい頃となりました。皆様、お元気でお過ごしのことと思います。
コロナは少し落ち着いてきていますが、まだマスクが外せない人も多くみられま
す。

親の会を始めて、早22年が、フリースペースを開設して21年が過ぎました。皆様
のおかげで続けてこられました。本当にありがとうございます。20周年のイベン
トや講演会も考えましたが、コロナ禍の中で断念した次第です。

フリースペースを始めた頃に参加していた子どもは大人になり、家庭を持ち子育
てしている人も何人かいますし、仕事や学校につながっている子もいます。

この春、高校や中学を卒業する子のために、アルバイトでもらったお金でお祝い
にお菓子を買ってきてくれた仲間の子もたちがいきました。私たちスタッフも、そ
ういふ姿を見て、とつても嬉しかったです（我々にもおすそ分けがありました
よ）。

最近では、選択肢が広がったためか、うちの利用者は少なくなる傾向にあります。
しかし不登校の子どもは多くなっています。学校では、先生も、その子の気持ちを
尊重されるようになってきて、登校を強制したりしないとお聞きしています。「不
登校も昔のように戦わなくてよくなり、文化になってきたように思える・・・」
と、ある若者も言っていました。とはいえ、通学している子どもを見ると、涙が出
るという親もいます。実際わが子が不登校になると、親が不安で落ち込む人もいま
す。その様子を見て、子どもは自分を責めるようになることもあります。親が平常
心を取り戻すために、カウンセラーや精神科につながる方法もありますが、親の会
に参加する方法もあります。つらいことを同じような立場の人たちに聴いてもらえ
れば、心が軽くなりますよ。そこで改めて、子どもと向き合い、学校のことだけで
はなく、それぞれの生き方として考えていただければ幸いです。

親の会「ほっとケーキ」代表 山口由美子

余白としてのフリースペース

先日、昔フリースペースに通っていた子たちから、集まりたいねと言われて居酒屋に私も含め6人くらいで集まりました。

付き合いのはじめの頃は、みんな小学生、中学生でしたが、今は大人です。仕事の話や、結婚や子どもの話、すっかりみんな大人ですが、あの頃と変わらない表情がありました。それぞれみんないろいろあるにしろ、元気な姿が見られて嬉しかったです。

子どもは親からの影響も大きいですが、親の思いとは別に生きていくようにも思います。「不登校」もその、ひとつの表れのようにも思います。親としては、楽しく学校に通って欲しいと思っても、そうはならなかったり、親からは見えない、知らない、悩みや苦しみがあったりします。親は手助けは出来ますが、人生を進めていくのは、その子自身です。親からの「あれをきなさい、これをきなさい、学校に行きなさい。」これではなかなか自分の歩みは難しいですね。もし学校で傷ついていたたり、悩みが多い状況だと、なおさらです。「自分らしさ」なんて簡単に言えるものではないですが、日々いろいろ押し寄せてくる状況のなか、自分を取り戻していくには、そういった状況の中に、「余白」や「隙間」みたいな、何もしなくてもいい、あれこれ評価されない空間や時間があることが大事かもしれません。

集まったフリースペースに通ってくれていた子たちも、最初に親の思い描いた人生とは別な生き方をしたのかもしれませんが、それぞれが素敵な歩みをしているように見えました。もちろん今でも日々の悩みはあると思いますが。また集まって、大人になってもある日々の忙しさに、余白の時間を作れたと思います。

スタッフ 森田義也

編集後記

AI



かつて不登校を経験し、「親の会ほっとケーキ」が運営するフリースペース ハッピービバークを利用した子どもの中には、仕事をしたり、専門学校に通ったりと自分なりの夢を生きている子もいます。そのような子どもの親の何人の方に聞いてみました。

○子どもが学校に行かなくなった時、親が感じたことは

- ・まず、「何で?」「どうして?」「学校で何があったの?」という疑問ばかりだった。
- ・このまま学校に行かないと、“勉強は”“この子の将来は”という不安が出て来て、目の前が真っ暗になり、孤立感も増した。
- ・どうにかして行かせようとした。でも、熱まで出てきたので、不登校かなと思い、親の会に相談した。しかし、不安でいっぱいの際に、親の会の方に大丈夫と言われても受け入れられなかった。

○その後の経過の中、親の変化や子どもの変化などで気づいたことは

- ・親は、親の会や信頼できる人との出会いの中で、不登校を受け入れることができた。しかし、受け入れている自分と不安や心配している自分がいて何度も揺らいでいた。
- ・親が受け入れていると感じた子どもは、生活が落ち着き、自分のやりたいことを言ったり、やるべきことをやり始めた。
- ・登校拒否・不登校を考える親の会全国ネットワークの合宿に参加して、大勢の不登校の親子に出会い、話を聞く中で、心の底から不登校の子どもを受け入れることができた。

○子どもが話していることで、印象に残ったことなどあれば…

- ・「僕は鳥になりたい」「何で?!」と聞くと「鳥は学校に行かなくて良いし、好きな時に好きな所へ自由に飛んでいけるから」と。
- ・「ほっとケーキがあって良かった!」居場所に行けば、仲間がいて、スタッフがいてくれてとても楽しかった思い出が残っている。
- ・不登校になって随分経った頃、何気なく「小学1年の時、皆の前で『私は、こんなに先まで宿題をしてこいと言いましたかね!』と先生から言われた」と話してくれた。子ども心に深く傷つき、これまで話せなかったんだろうと思った。
- ・たっぷり時間があるから、将来のことなどいっぱい考えている。

○他にあれば、自由に書いて下さい

- ・子どもは親の言動をよく観察している。
- ・子どもは、伝えることができなかつたり、言ってもわかってくれないと思うから、身体や行動に現れると思う。
- ・不登校しているときは、親も試されているときだったかなと思う。
- ・内田良子さん（心理カウンセラー）から聞いた「ゲームをいつまでもやる子はいない。もし、いつまでもやる子がいたら、逆にすごいと思う」という言葉。
- ・自分の子育てを責めているあいだは、親自身も自分のありようを否定している。
- ・親も子も否定しない生き方を。

居場所のグルメ

フリースペースでの昼食やスイーツなどを紹介します。



ス
と
唐

ほっとケーキのホットケーキ！



リ
ス

クリスマスケーキ



祭
風
寿司

お米のご支援

お米をいただきました。
ボランティアで居場所を開いていることに共感された東与賀町で農業をされている古川勝彦様から、お米をたくさんいただきました。フリースペースの食堂でも使っていますが、たくさんだったので、クリスマス会の時、プレゼントにも使いました。そのご家族からも感謝の声が聞かれました、古川様、本当にありがとうございました。

